午後３時25分再開

○議長（堀尾俊浩君）　休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番中島秀樹議員の質問を許可いたします。10番中島秀樹議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君）　質問の許可をいただきました、10番中島秀樹でございます。本日最後でございます。お疲れとは思いますが、もう少しおつき合いいただきたいと思っております。

小島議員の元気な質問を聞きますとすがすがしいなと思いまして、私も元気にやっていきたいと思っております。ただ、傍聴の方がこんなにいなくなるものなのかなと、もう少し残ってくれてもいいのかなと思いましたけれども、少し緊張も解けます。ただ、きのうから準備をしていまして、やはり何回やっても不安と心配がなくなりません。

最近、一般質問の事前打ち合わせといいますか、趣旨説明をするときに感じることがございます。私は、もう４期目の議員ですので、なるだけ一般質問しようと思ってやってきたんですが、職員の方と話していますと、昔は、「中島議員、実は僕は本当はこんなことがやりたいんですよ」とかいうことが多かったような気がします。ただ、最近特に感じますのは、少し職員の方と話して、帰り道に私自身の気持ちが暗くなるようなことが多いような気がします。わくわくするような、そういったことがないような気がします。

今回の質問も、「中島議員、なかなか大きな変化を望めませんので、答弁が短くなるかもしれませんから、議員、時間が持たないかもしれませんよ」とおどかされたりしたこともありまして、できるだけ情報をたくさん仕入れようとたくさんの方に会いました。私なりに取材をしてまいりました。一つは、地域商社の方と会ってまいりました。この中で地域商社の方に、これから伸びる地域はどこですかという質問をしましたらば、西は糸島市、東は宗像市、ここが有望でしょう、よくやっていると思いますということでした。南にはないんですかと私が質問しましたら、南にブレークしそうな市が１つありますと聞きました。どこですかと聞きましたら、それは嘉麻市です。私も嘉麻市は何でここに嘉麻市の職員が来ているんだろうと思う場面に何度か遭遇したことがあります。私は、嘉麻市がブレークをするということを聞きまして、嘉麻の議会事務局を通じまして、嘉麻市の職員さん、誰でもいいから会わせてくださいと。会って話をしたら、何か通じるものがあるんではないか、感じとるものがあるんではないか、百聞は一見にしかずではないかということで、会わせてくださいということでお願いをしました。そして１時間ほど話をしてまいりました。地域商社の方がおっしゃるには、嘉麻市の職員は、とにかくやってみましょう、それおもしろいですねというのが口癖だそうです。そして、私が会った嘉麻市の職員も、このタイプの職員は朝倉市にはいないと私は思いました。一を聞いて十を知るではありませんが、嘉麻市はひょっとしたらブレークするかもしれません。私は嘉麻市に行くときに峠を越えて行きまして、なかなか嘉麻市に行くことは難しいなと、心細いなと思いました

が、その嘉麻市がトンネルでつながって隣同士になります。交流が始まります。筑前町に負けるな、嘉麻市に負けるな。こう言って切磋琢磨して、朝倉市も将来のため頑張っていかないといけないと思っています。いろいろ今回の質問は、財政を、私そんなに得意ではありませんけれども、チャレンジしてみたいと思っています。

続きは、質問席より質問いたします。

（10番中島秀樹君降壇）

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　では、通告書に従いまして、１、２、３番の順番で質問をしていきたいと思います。

その前に、冒頭、甘木絞りの展示をさせていただいております。これは、北九州若松区にお住まいの日本一のコレクターでいらっしゃいました田中種昭さんという方の奥様から――田中種昭さんは残念ながらもうお亡くなりになってあります――お借りしてきた作品でございます。どうぞ、私は皆様に目に焼きつけていただきたいと思っております。本当は傍聴者の方にも見ていただきたかったんですけども、目に焼きつけていただきたい。それはなぜかというと、田中種昭さんは、80点のコレクションをお持ちですけれども、このコレクションがひょっとしたらば海外に出て行ってしまうかもしれません。フランスに行くかもしれません。ですから、現物を見るのはこれが最後、ものによっては最初で最後になるかもしれません。どうぞ、目に焼きつけてこの作品を見てやってください。

では、通告に従い質問させていただきます。

財政の見通しについてを質問させていただきます。

まずちょっと、最初に私が冒頭にチャレンジしますというふうに申しましたけれども、幾つかのキーワードを言わせていただきたいと思います。

まずチャレンジです。動物は、生き残るための本能として、とりあえず生きていけるならばその現状からの変化を避ける性質が生まれながらに備わっている。脳が不安や緊張を発生させて、行動をやめさせようとする。例えば、今の山、古処山だとします。辛うじて食べていける。少しひもじいけど辛うじて食べていける。だけどもちょっとひもじい。だったら、馬見山に移動して食べ物があるかもしれないから、行ったほうがいいかもしれないけど、ひょっとしたら最悪餓死するかもしれない。餓死するのは最悪の状況だから、それを避けようとするのが、人間が持つ本能。脳がそういった命令をいたします。これは、ほとんどの動物の脳に備わっている現状維持機能だそうです。ですからある意味仕方がないことです。この本能により、私たちの理性的な判断にも常にバイアス、偏りがかかっています。人間の脳は偏りがあるから、できるだけそれを排除しようと意識をしても、この本能から逃れることは非常に難しいです。現状維持と変化を選択する場合、私は理性的に正しい判断をした、俺は考えに考えて判断をしたと思っても、変化やリスクを少ないほうを、頭の中で正当化して選んでしまうのが人間だそうです。どちらにせよ、悩みに悩んだ

末、結局は何にも選ばないということを選ぶこともあるそうです。結果的に現状維持が続くことになると。動物の本能、脳に勝つことは極めて難しいです。ですから、私たちは正しい道を見きわめて選び、そして決断してチャレンジしなければならないと思っております。現実を見きわめ正しい選択をすることで、私たちは目的に近づくことができると思います。

朝倉市は、財政的に大丈夫ですかと、将来破綻するんではないかと、そういった市民の間で不安の声を時々耳にいたします。朝倉市の財政の見通しは本当に大丈夫なんでしょうか。まずそれをお尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　今般の議会中の決算審査特別委員会の中でも、直近の平成30年度の決算の成果説明並びに冒頭には現状の部分、説明をさせて場面を設けております。並びに、この間まで議会のほうには、勉強会という形の中で特に平成29年災害を受けてからの特別交付税の関係、あるいはその部分の中で考え方ということを示してまいりました。逐次、そういう状況の中で議会、議員の皆様のほうについては、わかる状況の中で数字的なこと、ただし、厳しいというのは常々この間言ってきたことは事実だと思っております。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　私は、市長の役割、部長の役割、職員の皆様の役割は、市民に夢と希望を与えることだと思います。夢と希望のない自治体からは、住民は逃げ出していくと思っております。そのためには、将来への投資、成長の種、これをまいていかなければならないと思っております。将来への投資、成長の種、まいておりますでしょうか。まく余力が残っていらっしゃいますでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　将来への投資といいましょうか、種ということで、人口減少の部分の中で昨日から地方創生の絡み、あるいは考え方ということに対して、今現在、やはり一丁目一番地という表現の中で復旧・復興をというところ。しかし、横断的というか、重点分野としてやはりそこの分についてを手を抜くことはできないというのがありました。ここについて、今、投資、種をまくというのも、一番考えていかなければならないということは重々認識をしております。ただ、具体的な部分の中で、まだまだそこについては到達できていないのが現状でございます。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　つらいとき、人はそれがいつか終わると確信しているから強くなれる。だが、いつ終わるともしれない戦いがもたらすものは絶望と脱力だというのが小説の中の一節にございます。私は、朝倉市は、今復興の途上にありますけれども、もうそろそろ、こういったタイムスケジュールで復興を果たしていきますと、朝倉市の未来は明る

いんですよと、そういったものを示すときではないかと思っております。市民が不安に感じていますので、リーダーとして、私は市長がそのビジョンを示すべきだと思います。市長、難しいと私は思っておりますが、そこはうそでもいいから俺についてこいと言って、リーダーシップを発揮すべきと思いますが、いかがでしょう。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　おっしゃるとおりだろうというふうに思います。ただし、うそでもいいからというわけにいかないのが、私どもの絶対的な責任でもございますので、そうお答えさせていただきます。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　済みません、私のうそでもいいからというのは、ちょっと訂正させていただきます。市長のトップとしてやはり責任がございますので、うそはいけませんね。

未来への投資、成長の種をまくためには、それなりの財源が必要だと考えます。実藤議員がおっしゃられましたように、私もふるさと納税に注力をすべきと思っております。市長がおっしゃられましたが、朝倉市は不幸にも災害で全国区になってしまいました。しかし有名になりました。ですから、この復興を発信して、本来のふるさと納税である趣旨にのっとって、私はお金を集めるべきだと思っております。

大庭議員は、関係人口をふやすべきだと、きょう質問されました。ふるさと納税というのは、本来の趣旨はふるさとを応援しようという方が朝倉市に寄附をするというのが本来の趣旨でした。それがいつの間にか変質してしまいまして、返礼品競争であったりと、そういった形になってしまいましたけど、泉佐野市の話もありまして、今、ふるさと納税が本来の方向に戻ろうとしておりますので、それは金額は多ければ多いほどいいんでしょうけど、少なくとも人口が急激にふえたりとか企業誘致が突然できたりとかすることはありませんので、ふるさと納税を地道にこつこつと、私たちはこういった市をつくっていきたい、こういったふるさとを復興していくんだということで、注力すべきというふうに考えております。

私の考えいかがでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　災害で、朝倉の名前がある程度広範囲に知れ渡ることになりました。これを活用するということと、昨日もお答えしましたように、これをばねにして朝倉が復興を確実にしているんだと、今議員が言われましたように、その姿を見せることは極めて必要であると。そのことがふるさと納税の維持あるいは朝倉市へのふるさと納税へ関心を持っていただいて、具体的に納税をしていただくということにつながると私も思います。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　復興をキーワードに、私はふるさと納税を集めるべきだと考えております。そのためには、応援してあげようと思わせる魅力あるビジョン、それが必要だと思います。ここの部分は、市長初めとして、やはりこれだけ災害が多発しておりますので、一つ頭が抜き出た、そういったビジョン、そういったものをお示しいただきたいというふうに思っております。財政は、「入るを量りて、出るを制す」と申します。なかなか入るの部分が多くなるのは難しいですので、ふるさと納税で、私は地道にやっていただきたいというふうに思っております。

次に、収入が大きくふえないんであれば、やはり支出の部分をコントロールするしかないと考えております。そのためには、行財政改革、そういったものを進めていくべき、効率化、合理化、民営化、アウトソーシング、省力化、こういったものを進めていくべきだと思っております。私は、事務事業評価であったりとか、こういったものが災害で少しおろそかになっているんではないかなと思っております。ただ、先ほども言いましたように、将来への投資をするためには財源を捻出しないといけません。

財政改革、効率化、そういったものは進んでますでしょうか。チャレンジしていらっしゃいますでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　議員言われますように、歳出の削減については厳しい事業の選択を行うとともに、行政改革に取り組む必要があると考えておるところでございます。民営化、あるいは業務委託というところの中では、最近では上下水道の窓口業務も外部に委託したり、あるいはこれはちょっと行政改革とは関係ありませんけど、杷木地域の小学校を統合したというのも一つの例かと思います。

事務事業評価につきましては、例年、発災前から、職員９月から11月にかけてやっておりました。決算をベースあるいは新規予算も視野に入れながらというところでやっておったところでございますが、このまま歳出の部分の中で、費用対効果あるいは効果的にここは担当課としてはやはりもうある程度熟知したのではなかろうかとかいろんな見方の中で、今現在確かに業務的に復旧・復興にかかっておりますが、当然そこはやらなければならないということでございますので、今年度からは少し前倒して６月から実際動き出しておるところでございます。ただし、なかなか原課としては補助金なりあるいは事業を削減という、もしくは縮小というのはなかなかできない話でございましょうけど、そこはやはり費用対効果もしくは効果的な部分が達成した部分であれば、そこあたりの事業の見直しというところを肝に銘じながら、今職員ともやっているところでございます。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　復興という日々の厳しいオペレーションに追われて、なかなかそういった改革的な、中長期的な試みというのは難しいというのは十分わかっております。

ですけれども、将来の投資をするためにチャレンジを、私はしないといけないと思っております。朝倉市は、臨時財政対策債、臨財債というのは残高はどれくらいございますでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君）　総務財政課長。

○総務財政課長（佐々木哲治君）　平成30年度末になりますけれども、112億円でございます。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　済みません、ちょっと思いついたもんだから質問いたしまして、事前に通告していなかったのでびっくりされたと思います。

臨時財政対策債、これは将来の地方税の交付金、これを財源にして発行ができる仕組みだと思っております。ということは、将来の子どもたちから我々はお金をいただいているということになると思います。だから、臨財債があるだけでも、私が言いたいのは臨財債を使っているというだけでも、私はやはり将来のために身を削って苦しい思いをして改革を進めていかないといけないんではないかと。日々のオペレーションが忙しいというのはわかるけれども、そういった意味でやっていかないといけないんではないですかということが申し上げたかったんですが、間違っていますでしょうか。お尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　大変行財政改革は新しい視点というものが入ってきておりますけれども、従来から言われておりますのは人件費の削減、公共事業の抑制、アウトソーシング、そういったことをトータル的にやっていくと、計画的に、ということで取り組むことだろうというふうに思っておりまして、確かに今、特に人の部分につきましては、まだまだ災害復旧を進めるためにも、後ろが決められている中で無理にしても進めていくという状況でありますので、なかなか厳しいということもございます。

ただ、アウトソーシングにつきましては、これはもう今もちょっと総務部長答えましたように、少しずつでありますけれども進めていると。上下水道の問題等を答えたように。

それから事務事業の見直しについては、きょうの質疑にもあったように、今厳しい状況ですけれども、これを進めていくと。

それとあと民営化、アウトソーシング、これについては、今ちょっと進行がおくれておる部分があります。例えば保育所の民営化とか、こういったことについてはしっかりと向き合って、厳しい面もありますけど、やっぱりやらないと将来の投資に対する財源というのはふるさと納税だけじゃありませんから、そういった面。それからきめ細やかな子育て支援にいたしましても、保育所を例えば民営化すればその財源が浮いてきますから、それを子育てに充てるとか、そういったことについてはしっかりと見据えて、そして腹を決めてやっていきたいというふうに思います。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　あと私がいろいろ考えまして、将来への投資が必要であると。夢と希望が必要です。市民はそれを望んでいますよと。それをするためには、やはり支出の部分をある程度メリハリをつけてやっていかないといけないと思っております。私が勝手に考えた言葉なんですけれども、計画行政が必要ではないかと思っております。そのためには財政の見通しを立てていただかなければなりません。

ここに、平成28年１月にお亡くなりになられた堀内副市長が中心となられてつくられた財政の見通しというのがございます。当時の森田市長がこういうのは県議会ではなかなか出てこないんだと、そう言ったのをよく覚えております。私もこれをいただいたときに、当時の森田市長の意志と、それと行政マンとしての堀内副市長の意志を強く感じました。特に、堀内副市長は、腹をくくってこの数字を出したんだなというふうに思っております。

私はこれを、なかなか変化の激しい時代ですので、10年とは言いませんので、もうそろそろ出していただけないかと思っております。５年版でも私はいいと思います。市長が政策の判断をなさるときに、多分内部的には簡単なシミュレーションをされてあるはずだと思います。財政のシミュレーションをされていると思います。その上に、この堀内副市長がつくられた財政の見通しというのが、基礎としてフォームがあるはずですから、これにのせて財政の見通しをつくっていただきたいと思っております。将来的には市庁舎の建設であったりとか、大型事業、朝農跡地の体育館建設であったりとか、そういったものが出てくると思います。いきなり予算書で出てきても、私たちは判断ができないと思います。そろそろ判断をする基礎、シミュレーションをいただきたいと思います。また、先ほど言ったように、市民に夢と希望を与えるために、私たちは正しい判断をしなければなりません。現状を見きわめなければなりません。ですから、そろそろこの５年の見通し、お忙しいと思います。新しい財政需要が次から次に災害を通じて出てくるというのもわかっています。ですけれども、そろそろ出していただきたい、そういうふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長

○総務部長（石井清治君）　財政の見通しを以前10年間の中でのシミュレーションという形の中で議会のほうに出させていただいておりました。当然、災害発生後は、歳出では災害復旧事業に係る事業費、その他の事業費が算出が難しいということ、また、歳入については、特別交付税の交付額の見通しの難しさなど、数値化することが困難ということで、作成については見送らせていただいた経緯がございます。そのために、議員各位には特別交付税の交付状況や財政調整基金の状況などを報告させていただきました。

今後、今定例会で報告をしております平成30年度決算に基づき作成をしていくつもりであります。まだまだ数値化が困難なものもあるため、前提条件が多くなります。精度が低くなると思われますが、その際には御了承いただきたいと思います。そこあたりを踏まえて、財政の見通しを５年後までというところの中で考えておるところでございますが、言

いますように、今、合併算定替えの影響あるいはいろんなことの新たな部分があります。重複しますが、そういう前提を踏まえた上でというところで、何年先までつくれるというのもまだまだ不透明でございますが、検討させていただきたいというところでおりますので、御理解をお願いいたします。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　災害による特殊な財政事情、こういったのが次から次に出てきているというふうに私は思っております。でも、もう災害が起きて２年たとうとしております。２年たてば、ある程度、私は予測がつくんではないかなというふうに考えております。優秀な佐々木課長だったら、私は捉えられるんじゃないかというふうに思っております。そして、その当時森田市長がこの財政見通しを出されましたけども、森田市長はこういうことがしたいんだということが伝わってまいりました。それを林市長に盛り込んでいただきまして、ぜひとも私たちの前に、議会の場に見せていただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　２年たっておりますけれども、災害からの復旧事業、そして生活再建、それに伴う事業が今大きな形で財政的に出てきたと。これが今年１年で済むという状況ではないと。じゃあ来年はどうなのかと。これが非常にまだ見えないというのは実態でございます。これを踏まえた上で、その他の要因も、総務部長が言いましたけれども、精度が低くなるけれども、財政の――計画まではつくりづらいと。公表できないと、だろうと思います。財政の見通しとしてお示しをするようなことで努力していこうかということで、我々は今協議をさせていただいているということを御理解いただきたいと思います。

今お尋ねになりました。これを持って凍結している合併特例債を活用した事業、いわゆる大型事業、その他合併特例債に関係ない大きな財政を伴う事業について、同時にこうしますということを約束することは、現時点では私はできません。皆様方がそれを知りたいと、どうなるんだといったことについて、具体的にこうやっていきたいと言える部分については当然のことながら議会の皆様方に知って応援してもらわないかんから、やりますけれども、全体としてこうやりますよという段階ではないということは御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　非常に市長の重たい言葉をいただきました。何を守り何を変えるべきかというのは、私は峻別が必要だというふうに考えております。小島議員の質問にもありましたように、この10年で朝倉市が変わるか変わらないか、それがかかっているのだと思っていますので、大変難しい注文を付けるかもしれませんけど、ぜひとも財政の見通しを私たちが判断をする、そういった基礎になる資料をいただければと思っております。

時間がありませんので、次の質問に移らせていただきます。

私は、平成23年９月に朝倉市の一体感の醸成についてという質問をさせていただきました。これは、朝倉市が合併をしまして、一体感がいま一つないんじゃないかと。そのために、一体感を醸成するためにどうしたらいいということを質問させていただきまして、今回、復旧から復興にさらに弾みをつけられないかということで上げさせていただいておりますが、経済的な復興ということで質問させていただきます。

私は、被害がひどかった旧杷木町におきましては、大きな支援が入りましてインフラは前以上に整い、安心して住めるまちができるというふうに思っております。ただ、復旧はしたけれども、ふたをあけてしまったらば、人が少なくなっていてにぎわいが失われてしまうんではないかと心配をしております。この点はいかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部付部長。

○総務部付部長（野中智弘君）　今後のにぎわいという点についてお答えさせていただきたいと思います。

まず、昨年３月に策定しました復興計画の中におきまして、現在10年間を見据えて、今復旧を進めております。そういった中で今年度までが復旧期ということで、地域の災害からの復旧を全力で取り組んでいるところでございます。そうした中で、にぎわいという部分につきましては、今後被災地が新たな魅力、活力ある地域として生まれていく、こういったところが大事かと思いますので、この準備期として、今後、先ほど来市長からも答弁ありましたとおり、災害をばねにして再生・発展を見据え、こういうところを考えて準備期間として取り組んでいきたいということで、これから取り組んでいく必要があろうかというように思っております。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　さきほど言いましたように、ハード面での復旧というのは飛躍的に私はできるんではないかと思っているんですが、そういったにぎわいの面でのソフト面といいますか、そういった部分がこれからどうなるんだと心配をする声を聞きます。私は、さきほど言いましたように、夢と希望を与えるのが行政の皆様の役割だというふうに感じておりますので、復興後はこういった形になりますということで、ビジョンを示すべきではないかと。こういった地域になりますよ。こういったにぎわいが取り戻せますよ、復活しますよというビジョンを示すべきだと考えております。ビジョンを示せ、ビジョンを示すようにチャレンジしてくださいと申し上げたいと思うんですが、これは可能でしょうか。お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部付部長。

○総務部付部長（野中智弘君）　さきほども御答弁しましたとおり、まずは現時点におきましては復旧に全力で取り組んでいくと。その中で、将来的な発展に向けてチャレンジ、これについてはしっかり取り組むべきことだということで考えております。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　復興計画の中に、復旧期、再生期、発展期というふうに３段階に分かれております。選択と集中で、今は復旧に集中をすべきときだと、それはよくわかっております。しかし、やはり将来こういった姿になりますよ。発展期の完成形はこういった形ですよというのを示してあげないと、私は住民は不安ではないかと、そういうふうに思っております。

私は、旧杷木町地域は観光と農業で発展していくまちだというふうに考えております。そういうふうに朝倉市の中で役割があると、ゾーニングを私はそういうふうに考えております。この旧杷木町、被災がひどかった、ここのゾーニングについては、市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　議員がおっしゃいましたように、朝倉市の一体化がというお話ちょっとされました。まさしく災害からの復旧・復興について、全市挙げて取り組んでいくと。行政もそうですし、議会の皆さん方にもお力を借りながら、市民一体となって取り組んでいくということを申し上げております。これがなければ本当の将来夢がかなうような朝倉市はできないだろうという意味も含めて、そのように申し上げているところでございます。

この中でゾーニングということで今質問をいただきました。現在のところゾーニングを、杷木地域はこうだ、こうだということはちょっと申し上げにくいところがございます。ただ、復興の考え方として、基本的に杷木地域を復興させていくと。経済的に元気にしていこうということについて、農業と観光が基本という考え方についてはそのように思います。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　突然のゾーニングの質問、どうぞお許しください。

私は、先ほど申し上げましたように、観光と農業でにぎわいを取り戻していくのがいいんではないかと私なりに考えております。そのためには、果物を、農業は野菜ではなく果物がいいんではないかと思っております。柿という、伝統の志波柿、志波柿を代表とするおいしい柿がたくさんありますので、果物だったら東京で10倍の値段で売ることもできます。野菜は、多分首都圏でも10倍で売ることはできないと思っておりますので、果実がいいと思っております。ただ、柿もなかなか全体の市場のパイが縮小している中、新しい果物のブランドを考えるべきではないかというふうに、私は考えております。私は、これもう済みません、一晩考えたもんなんですけど、ブドウとか、今シャインマスカットが非常にはやっておりますので、ブドウあたりを第２のブランドとして育成していくべきと考えております。これについてはいかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君）　新たな農産物、果実ということでございますけども、平成29年豪雨災害によりまして、農地及び農業施設につきましては、甚大な被害が発生して

おります。それに伴いまして、現在、全国でも初めてと言われております区画整理型の農地改良復旧事業に取り組んでおります。この農地復旧後の営農再開に当たりましては、やはり単に従来の農業の再開ではなく、新たに整備された農地を有効に活用し、被災を受けた地域の実情に合った営農形態を構築することが大切ではないかと思っております。そのためには、やはり被災を受けました地域の皆様と検討しながら、先ほど議員のほうから御提案ありました新たな果実でございますけども、これにつきましてもその農産物、それについても関係機関等と一緒に協議を行いまして、その地域地域で合ったそういう農産物に取り組んでまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　もちろん、その組織として練ったわけではありませんので、私は考えはちょっと浅いかもしれませんけれども、私なりに考えまして提案をさせていただきます。

観光の面では、私は花がいいんじゃないかなと思っております。バサロの前のひまわり畑、菜の花、それとキリンビールのポピー園、そういったものが朝倉市にはありますので、もう少し杷木地域で花をたくさん植えまして、そしてこれは杷木ではないんですけれども、三連水車の里にも花を植えまして、朝倉市に行ったら花がたくさん見れると、こういった試みをしたらどうかと、きのう一晩考えてみたんですが、いかがお考えでしょうか。感想をお聞かせください。

○議長（堀尾俊浩君）　農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君）　花につきましては、やはり観光資源の一つとして大きいものがあると思います。朝倉市につきましては、深い歴史のほかに、四季折々の花々がございます。先ほど議員のほうおっしゃいました道の駅原鶴での菜の花、ひまわり、キリンビール福岡工場でのコスモス、また秋月、杉の馬場や甘木公園、近年では寺内ダムの桜など、そういうところには例年多くの観光客が見られます。また朝倉地域には、自然と共存してきた三連水車等がございます。その中で、先ほどの三連水車の里あさくらがございます。

この三連水車の里あさくらについては、敷地の制約等もございますが、花の植栽等について、今後、検討してまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　あともう一つ、提案をさせていただきたいと思っております。

担当課の皆様は、日々忙しい中、厳しいオペレーションの中、いろいろ知恵を絞っていらっしゃると思うんですけれども、やはりそろそろ民間の力を借りて、先ほど地域商社というのを出させていただきました。地域をまるごと国内外に売り込む団体のことを指します。地産地消ならぬ、地産外消をする団体でございます。こういったものを活用するというのも大事ではないでしょうか。今はコラボレーションの時代でございます。皆様が一生

懸命考えてあると思うんですけれども、新しいアイデアを入れることによって、よりよいものが生まれる可能性もありますので、民間の力をそろそろ借りて、自分たちで考えて時間がいたずらにすぎるよりは、早くどこかと組むということを決断して、チャレンジしてくださいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　総合政策課長。

○総合政策課長（則松秀樹君）　議員が言われます地域商社につきましては、2016年ぐらいから取り組みが進められてきたものでございます。おっしゃいますように地産外消を旨として、市場動向を探って、地域内に利益をもたらして新事業を立ち上げるというところを狙いとしておると。このごろ言われだしたのが、関係人口をふやすという形で、その中から派生した考え方かというふうに思われます。ですので、地域商社を誘致すると、これは集団でございまして、企業体でございますので誘致する必要がございます。関係人口といいますのは、朝倉市に興味を持って、朝倉市の売り込みに力を入れてくれるとか、もしくは観光資源をアピールしてくれるとか、そういう個人を指しておりますので、そういう個人を、活用を進める中で、それが地域商社につながることがあればというような考え方は持っております。まずは、関係人口を取り組んでいきたいというところでございます。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　ブドウと花と地域商社、私なりの浅知恵で考えさせていただきました。どうぞ御検討いただきまして、使えるんだったら使っていただければいいし、使えないんだったらどこかごみ箱にでも入れていただければというふうに思っております。

　では、時間も迫ってまいりましたので、最後に甘木絞りのことについて質問をさせていただきます。

　今回の質問の趣旨は、甘木絞りの作品80点余りあるんですが、これを里帰りさせられないかという質問でございます。北九州市若松区に在住していらっしゃいました田中種昭様――昭和４年生まれの方なんですが、残念ながら平成27年にお亡くなりになってあります。私は、平成22年に甘木絞りの質問をさせていただきました。そのとき、田中さんはこの甘木絞りを甘木に里帰りさせたいと。非常に図柄が絵画的で魅力があるし、それにほとんど、今、もう物が残っていないと。田中さんが持っている82点が、多分日本に残っているほぼほぼ全部と思っていいと思います。そして、甘木絞りというのは小石原川の水質も関係していて、しかも見てのとおり非常に手がかかる、ある意味ぜいたく品でございます。これが、甘木が昔繁栄した証でもあるというふうに考えております。しかし、その田中さんも天寿を全うされ、今はいらっしゃいません。

　先日、私は７月末に田中様の奥様に呼ばれてお話をしてまいりました。奥様は「ぜひとも作品を、主人の意思を継いで、甘木に里帰りをさせたいんだ」とそういうふうにおっしゃられました。田中さんの娘さんというのは、実はフランスの方と結婚をされてありまして、フランスにお住まいになってあります。北野武の映画作品とかでもわかりますように、

非常にフランスでは日本の物というのは人気があるそうです。そして、中国の方が特にまたフランスの中でも日本の物というのは好んで買われたりするそうです。私はこのままでいくと、この作品群が海外に流出してしまって、二度と私たちの手元に戻って来ないのではないかと心配しております。国内にあるんであれば、まだ見ることができるんですけれども、海外にわたってしまったらば、もう二度と見ることができないというふうに思っております。昔、これは何年だったかな。九州国立博物館で、ボストン美術館の日本美術の作品展があったと思います。これは日本の美術的な至宝が海外に流出をしまして、東京国立博物館には日本美術が約11万点あるそうなんですが、ボストン美術館には10万点あるそうです。これは、なぜ日本の国宝級の宝が海外に行ったかというと、日本人以上に日本美術に魅せられた人、フェノロサという東大の学者だった方なんですけども、いらっしゃいまして、その方が理解があって買い集められたということ。それと、日本美術を顧みないそういった時代があったと。やはり明治維新のころは、やっぱり西洋に追いつけ追い越せでいらっしゃいましたので、日本美術が二束三文で売られていた時代があったそうです。私は、この甘木絞りが九州国立博物館で見たボストン美術館でのあれは龍の絵なんですけども、あれは何だったかな、曾我蕭白の雲龍図というのを、大きな龍の見事な作品ですけども、そういったものと同じになるんではないかと。幻の国宝と言われているそうなんですが、幻の甘木絞りになるんではないかというふうに思っております。どうぞこれがラストチャンスです。私はぜひともそれは、流出は防ぎたいというふうに思っております。ですから、この災害があって厳しい時期ですので、財政的なこととか、それからコンセンサスを得るというのは非常に難しい。市民の理解を得るというのは難しいというふうに思っておりますが、ぜひとも田中さんの奥様、田中博子様というんですが、とコンタクトを取っていただいて、この流出を防いでいただきたいと思っております。田中様の奥様ですので、もう結構、御高齢でいらっしゃいます。残された時間は少ないと思います。ただ、奥様がお亡くなりになったら、間違いなく僕はフランスに作品群は行ってしまうと思っております。田中さんの奥さんと連絡を取っていただきたいと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　教育部長。

○教育部長（山南哲也君）　故田中種昭氏が情熱を持って収集されました田中コレクションでございますけれども、これは現存する質、量ともに優れた染色技法の一級の作品群であることは間違いないというふうに考えております。

平成29年度、2017年に企画展で田中コレクションから借用、展示をさせていただきました経緯もございまして、文化財係とか甘木歴史資料館ではこの研究を続けまして、関係をぜひ維持していきたいなというふうに考えております。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　田中様の奥様と話をしておりましたらば、これが最後になるかも

しれないし、そして本物の甘木絞りというのは、甘木の方も見たことがないはずだと。ですから、最後に見ていただきたいと。そして、その見ていただくことが、甘木絞りの里帰りに役に立つんであれば、ぜひとも市民の方に見てほしいというふうにおっしゃってありました。私はこの奥様の厚意を生かし、甘木でぜひとも展示会をやっていただきたいと思っております。市庁舎でも結構ですし、ピーポートでも結構です。どこかで私はやっていただきたいと思っておりますが、できませんでしょうか、いかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　教育部長。

○教育部長（山南哲也君）　先ほども申しましたけれども、甘木歴史資料館では、過去に一部借用しまして特別企画展を２回実施しております。また、この資料館では甘木絞り保存会でございますとか、甘木絞り保存伝承の会、こちらが資料館のロビーとか研修室を使って自主展示を数回開催しております。こういう御縁もありまして、これまでの展示実績とか展示の環境の面も考えまして、この当資料館のほうでの展示が適当だというふうに考えております。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　今の答弁は、歴史資料館で展示が可能というふうにとってよろしいでしょうか。

　最後にもう時間が迫ってまいりましたが、市長、最後にこの件につきまして、何かお言葉をいただきたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　甘木絞りの最大のコレクターが、当然のことながら福岡県に、日本に、そして北九州にいらっしゃるということでございます。そして今、教育部長のほうから答弁申し上げましたように、これまでもいろんな方の御努力もあって、展示会を開催をしたということでございますので、ぜひ私といたしましても、展示会開催に向けまして、しっかりと取り組んでまいりたいというふうに思います。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　終わりです。

○議長（堀尾俊浩君）　10番中島秀樹議員の質問は終わりました。

　以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

　次の本会議は、９日午前10時から行い、一般質問を続行いたします。

　本日は、これにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後４時25分散会